

平成 2 7 年 第 9 回

印西市教育委員会定例会会議録

平成 2 7 年 9 月 1 7 日（木）

平成27年第9回印西市教育委員会定例会会議録

日時：9月17日(木)午後2時00分

場所：印西市役所4階41会議室

1. 開 会
2. 開 議
3. 議事日程の報告
(議事日程)

日程第 1 委員長が指名する会議録署名委員の指名

日程第 2 会期の決定

日程第 3 教育長報告

日程第 4 議案第1号

平成28年度印西市立幼稚園入園児募集について

日程第 5 その他

4. 閉 議
5. 閉 会

出席委員(5名)

1	番	委 員	大 野 忠 寄
2	番	委 員	青 山 光 男
3	番	委 員	寺 田 充 良
4	番	委員長	佐 藤 めぐみ
5	番	教育長	大 木 弘

欠席委員(なし)

説明のため出席した職員(6名)

教 育 部 長	小 山 健 治
教 育 部 参 事 (教育総務課長事務取扱)	山 崎 剛
学 務 課 長	井 上 愛 一 郎
指 導 課 長	野 田 幸 一
生涯学習課長	湯 浅 静 夫
スポーツ振興課長	渡 邊 孝

職務のため出席した職員(2名)

教 育 総 務 課 総 務 班 主 査	安 西 浩 紀
------------------------	---------

(14時02分)

(開会の宣告)

佐 藤 委 員 長

ただいまから、平成27年第9回印西市教育委員会定例会を開会いたします。

(開議の宣告)

佐 藤 委 員 長

これから本日の会議を開きます。

(議事日程の報告)

佐 藤 委 員 長

本日の議事日程については、お手元にお配りしたとおりです。ご了承願います。

(会議録署名委員の指名)

佐 藤 委 員 長

日程第1 会議録署名委員の指名を行います。

本日の会議録署名委員は、会議規則第31条の規定により、1番、大野委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

(会期の決定)

佐 藤 委 員 長

日程第2 会期の決定を行います。

本定例会の会期は、会議規則第4条の規定により、本日1日とします。

(教育長報告)

佐 藤 委 員 長

日程第3 教育長報告を行います。

大木教育長。

教 育 長

それでは、教育委員会の活動報告をさせていただきます。

まず、経過報告から。

8月23日日曜日、第21回六軒相撲大会が巖島・水神社境内の土俵で開催され、出席をしましてまいりました。

24日月曜日、別所の獅子舞公開事業が別所地蔵寺で開催され、出席をしましてまいりました。委員長初め、委員の皆様にもご出席、ありがとうございました。

31日月曜日、第3回市議会定例会が開会いたしました。会期は9月30日までの予定です。

9月に入りまして、2日、第4回市校長会議が内野小を会場で開催されました。

16日水曜日、小林駅自由通路開通式典が、JR小林駅で開催され、出席をしましてまいりました。

17日木曜日、第9回教育委員会定例会が市役所で開催されております。

行事予定でございます。

9月18日金曜日、第21回関東大学女子駅伝対抗選手権大会関係者会議が市役所で開催されます。

19日土曜日、第10回U15全国KWB野球秋季大会開会式が成田市で開催さ

れます。大会は22日までの予定です。

23日水曜日、無形民俗文化財「いなざき獅子舞」公開事業が和泉鳥見神社で開催されます。委員の皆様もご出席、よろしくお願いいたします。

25日金曜日、第4回学校適正配置審議会が市役所で開催されます。

27日日曜日、第21回関東大学女子駅伝対校選手権大会が千葉ニュータウン内で開催されます。

29日火曜日、文化の日印西市功労者表彰審査会が市役所で行われます。

10月に入りまして、1日木曜日、第10回教育委員会定例会が開催されます。また、同日、第2回総合教育会議が市役所で開催されます。委員の皆様のご出席をよろしくお願いいたします。

以上でございます。

ただいまの報告について、質疑はありませんか。

なし

すみません、1点、私のほうからお伺いしたいことがあります。後ほど構わないんですけれども、9月19日、U15の野球大会で、印西市で出場しているチームの様子があったら、後ほど構いませんので教えていただけたらと思います。

はい、わかりました。

これで日程第3 教育長報告を終わります。

日程第4 議案第1号 平成28年度印西市立幼稚園入園児募集についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

学務課長。

議案第1号 平成28年度印西市立幼稚園入園児募集について。

印西市立幼稚園管理規則第18条の規定により、印西市立幼稚園入園児を別紙のとおり募集する。

平成27年9月17日提出。

印西市教育委員会教育長、大木弘。

それでは、入園児の募集について、別紙、募集要項をもとにご説明申し上げます。

1、募集人員。大森幼稚園、4歳児70名、瀬戸幼稚園、4歳児105名、もとの幼稚園、3歳児105名でございます。

大森幼稚園につきましては、平成28年度末をもって閉園となりますので、来年度入園児の保育年数は1年間となります。

大森幼稚園の閉園及び印旛高跡地への認定こども園の設置につきましては、この後の日程第5、その他のところで概要を説明させていただきます。

佐藤委員長
各委員
佐藤委員長

教育長
佐藤委員長
(議案第1号)
佐藤委員長

学務課長

2、入園資格。市内に住所を有し、記載の年齢相当の幼児でございます。

3、受付。会場は3カ所、大森幼稚園、瀬戸幼稚園、本埜公民館でございます。

日時につきましては、要項に記載のとおりです。

なお、表の下にもありますように、保護者の都合を考慮し、受付場所についてはどこでも大丈夫なようにしてあります。

次のページをご覧ください。

4、入園決定につきましては、後日、学務課から保護者宛てに通知をいたします。応募者が募集人員を超えた場合は、公開抽選を行い決定することとしております。抽選予定日は、11月18日を予定しております。

5、入園料及び保育料でございますが、現行のとおりでございます。

なお、今後、幼稚園3園で運営方法が異なっております給食の提供方法、就学年齢、園児バスの統一を図り、その後、保育料の改定をする方向で考えているところでございます。

6番、7番につきましては、記載のとおりでございます。

説明は以上でございます。よろしくご審議くださいますようお願い申し上げます。

佐藤委員長

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

では、先に私からお願いしてよろしいでしょうか。ただいまの在籍数がわかりましたら、お教えいただきたいんですけども。

学務課長。

学務課長

そのデータを持っておりませんので、後でお答えさせていただきます。

佐藤委員長

ありがとうございます。

ほかに質疑はございませんか。

大野委員。

大野委員

大森幼稚園が28年度末をもって閉園されて、新しい幼稚園が新設されると。そちらのほうの定員と規模みたいなものは、どういうものができるのか、教えていただければと思います。

佐藤委員長

学務課長。

学務課長

閉園をして、認定こども園が設置されるわけなんですけど、これについては先ほど申し上げましたように、その他の5のところでの概要についてご説明させていただきますので、よろしくお願いいたします。

佐藤委員長

ほかに質疑はございませんか。

青山委員、お願いします。

青山委員

入園決定のところで、応募者が定員を超えた場合には公開抽選というふうに説明がございましたけれども、昨年度は、公開抽選となった園児の数というのはどのくらいあったのでしょうか。また、ことはまだ募

佐藤委員長
学務課長

集していませんから、そのことについては答えられないと思いますけれども、昨年はどんな状況か。

学務課長。

昨年度については公開抽選を行っておりません。つまり、定員内で募集があったということでございます。ちなみに、一昨年、その前も公開抽選は行っておりません。

青山委員
佐藤委員長
各委員
佐藤委員長

ありがとうございます。

ほかに質疑はありませんか。

なし

それでは、これで質疑を終わりにいたします。

議案第1号 平成28年度印西市立幼稚園入園児募集についてを採決いたします。

お諮りいたします。

議案第1号 平成28年度印西市立幼稚園入園児募集については、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

各委員
佐藤委員長

異議なし

異議なしと認めます。

したがって、日程第4 議案第1号 平成28年度印西市立幼稚園入園児募集については、原案のとおり可決されました。

(その他)
佐藤委員長

日程第5 その他について、何かございますでしょうか。

学務課長。

学務課長

それでは、学務課から、大森幼稚園の閉園と幼保連携型認定こども園の設置についてということで、資料を用意いたしましたので、それに基づいてご説明をさせていただきます。

まず、1番の大森幼稚園の閉園の背景でございますけれども、5点ございまして、その概要をご説明いたしますと、1点目は、国の動向として、認定こども園の普及を推進していること。

それから、2点目につきましては、市の施策として、多様な保育サービスの充実を図るため、認定こども園の推進を重点としていたこと。

3点目につきましては、印旛高校の移転に伴い、自然が豊かで教育環境に恵まれた場所を幼稚園として提供できること。

4点目につきましては、大森幼稚園の老朽化と駐車場に関し、施設の大規模修繕が必要な状況であること。また、保護者の送迎や行事の際に、近隣住民に迷惑をかける状況になっていること。

それから、5点目につきましては、預かり保育等、認定こども園に移行することにより保護者のメリットが大きいこと。

このような背景が大森幼稚園閉園の背景としてございます。

次に、2番、幼保連携型認定こども園設置に至る経緯でございます。

平成21年度の印旛高校跡地活用検討市民会議をスタートに、平成23年

度の跡地活用基本計画、平成24年度の跡地活用基本設計を経て、大森幼稚園、大森・木下保育園を統合し、民設民営で幼保一体型施設を設置することが決定いたしました。平成26年度からは保育課が中心となり、用地取得、インフラ整備を行い、本年度中に事業者を決定、来年度、施設建設、平成29年度に開園予定となっております。このことにより、大森幼稚園が平成28年度末をもって閉園となるということでございます。

次のページをご覧ください。

印旛高校跡地への認定こども園の新設についてご説明いたします。

初めに、中段の「認定こども園とは」をご覧ください。

印旛高校跡地に設置予定の認定こども園につきましては、幼稚園機能と保育園機能をあわせ持った施設でありまして、保護者の就労の有無にかかわらず、施設の利用が可能な状況となっております。

また、地域における子育て支援を行う機能も持っており、相談活動や親子の集いの場の提供も行ったりもするということでございます。

次に、「施設概要」をご覧ください。

住所は印西市木下字平台804番6、旧印旛高校のグラウンド跡地でございます。地図では、右側の認定こども園新設予定地のところでございます。

施設定員でございますが、幼稚園部分と保育園部分を合わせて200名程度を予定しております。

開園日は、平成29年4月1日の予定でございます。

右側をご覧ください。

今後のスケジュールでございますが、本年10月から11月にかけて、運営事業者の公募を行い、12月に事業者を決定する予定です。来年度は、事業者側で施設の建設工事、入園の説明会、入園受付等を行い、平成29年4月1日に開園する予定でございます。

その下の、施設統合を行う理由につきましては、冒頭でご説明申し上げた大森幼稚園閉園の背景と重複する部分が多々ございますので、省略をさせていただきます。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

佐藤委員長

ただいまの点につきまして、何かご質問はございますでしょうか。

青山委員

青山委員。

今、説明をいただきましたので、大体は理解できたところなんですが、認定こども園について、幼稚園の機能とそれから保育園の機能をあわせ持っているということで説明がありましたけれども、そのほか、幼保連携型の認定こども園のメリットといいますか、ほかの幼稚園とか保育園だけの施設と違って、幼保連携した場合のメリットというのはどんな部分があるんでしょうか。

佐藤委員長

学務課長。

学務課長

一番のメリットというのは、保護者の就労の状況によって、幼稚園に

入るか、保育園に行かなくてはいけないかというのがあると思うんですが、この認定こども園については幼保連携型ということで、幼稚園機能と保育園機能を両方持っていますので、保護者の就労の状況が変わっても、同じその場所に行ける、施設に行けるというようなメリットが、要するに子供が転園しなくても構わないというようなところが一番のメリットかなと考えます。

保護者のほうも、働きたいけれども働けないような状況があったりとか、いろんなことがあると思いますので、その辺が余り関係なく、安心してその施設に、1カ所の施設に子供を預けられること、つまり、子供にとってそのまま、ずっとその認定こども園にいられるというところが一番のメリットがあると考えています。

佐藤委員長
青山委員

青山委員。

それから、もう一つ。

今、説明をいただいて、本当によくわかりました。ありがとうございます。あと、子育てに関する相談の場や親子の集いの場を提供するとありますけれども、これは認定こども園に通っている子供たちや保護者を対象に限ったものということで理解していいですか。

佐藤委員長
学務課長

学務課長。

認定こども園は、ここにも書いてありますが、地域における子育て支援を充実と書いてありまして、この相談活動とか集いに参加するというのは、その認定こども園に通っている保護者と子供だけではなくて、その地域の子育てをしている人たちが、その認定こども園に行って、子育てに関する相談を受けたりとかその集い等で、ほかの保護者の皆様と交流をしたり、子供たち同士の交流をしたりすることができるという意味合いです。

佐藤委員長
青山委員

青山委員。

わかりました。

もう一つ、今の説明を聞きまして、そういうふうに保護者の立場からすれば、非常に受け入れの幅もありますし、そこに通う子供たちも、親の事情にかかわらず、そこに通えと。また、地域の方も子育てについて、今、核家族化がどんどん進んでいますから、相談したいというのも、電話ではなくて、直接行って、そういう相談ができると、またそういう専門家の方もいらっしゃるんだろうと思いますので、非常にいいなというふうに私、思うんですね。

できたら、ほかの今ある幼稚園などにも同じような機能を、また幼保連携の形で認定してもらえそうな方向になったらいいなというふうに私は思いましたけれども、そういうことについてはどのように考えていらっしゃるのかということが一つと、これは課長にお聞きして申しわけないんですけども、そのことが一つ。

あと、募集を今度新しくしますよね。先ほどの説明ですと、今の森

幼稚園とか、それから大森保育園、木下保育園のお子さんたちは、引き続いてそこに行かれるのかなということをちょっと思ったんですけれども、それからあと、募集をかけるときに、その募集のスタートの年齢が、今現在で、もとの場合は3歳、ほかのところは4歳で募集がかかっていますよね。その募集は何歳からかけるのか、まだこれから先のことなので、今の時点でそういうことを聞いてもあれなんですけれども、どんなお考えなのか教えていただきたい。

佐藤委員長
学務課長

学務課長。

市内には、幼稚園については公立3園と私立が何園かありますが、学務課が管轄しているのは公立幼稚園だけですので、青山委員のご質問は、今の幼稚園を認定こども園化しないのかというような意味合いかなと思います。

これにつきましては、現在のところ認定こども園にするというような議論は一切まだしておりません。幾つかクリアしなければならない事務的な部分とか、当然、認定こども園化することによって、預かり保育的な部分とかいうものも出てきますので、その辺で人的な配置というのが必要になってきますので、クリアしなければいけない課題が幾つかあると思いますし、認定こども園なので、ちょっと現在のところ、公立幼稚園を認定こども園にするというような議論は現在はまだないというような状況です。

それから、大森幼稚園が途中で終わって、向こうの認定こども園のほうに引き続きという意味合いのご質問と思いますが、これは優先的に受け入れてもらうというような条件で事業者を募集するということです。

それから、保育年限につきましては、これは保育課のほうが中心になりますが、幼稚園部分については、3歳児から、要するにもとの幼稚園と同じ3、4、5歳児を受け入れるというような方向で進んでいるということは聞いています。

佐藤委員長
青山委員

青山委員。

わかりました。今、私が住んでいる旧の本埜地区でも、農村地帯なんですけれども、両親が共働きで預ける先がないとか、そういう例もふえてきているんですね。ですから、預かり保育等を特定の地域に限らず、やっぱり必要になってきているのではないかなというふうに思うので、ぜひその辺を考慮していただけたらありがたいなとちょっと思いました。よろしくお願いします。

佐藤委員長

ほかに質疑は。

寺田委員

寺田委員。

認定こども園についてですけれども、県知事が認定こども園として認可するというようなことが書いてありますけれども、建築費その他は県から補助とかそういうのはないんですか。

佐藤委員長

学務課長。

学 務 課 長

認定こども園というのは、今、おっしゃったとおり、県知事が認定することになります。ちょっと補助につきましては、すみません、勉強不足でございます。

佐 藤 委 員 長

寺田委員。

寺 田 委 員

わかりました。今後、検討していただければ。

佐 藤 委 員 長

大野委員。

大 野 委 員

この3園が一緒になるというような形で、その後、この旧の建物の使い道であるとか、そういうものは今後、どんなふうを考えられているのか、ちょっとその辺を教えていただきたいと思います。

佐 藤 委 員 長

学務課長。

学 務 課 長

跡地活用のところかと思うんですが、今、検討している途中でございます。

佐 藤 委 員 長

大野委員。

大 野 委 員

わかりました。

佐 藤 委 員 長

ほかに質問はございませんか。

では、私のほうから。

私事ですが、大森幼稚園第1回生の卒園生になります。ですので、大森幼稚園が閉園するということにかなりのさみしさと感慨深いものがありますけれども、ただ、またこのようないろいろな機能を持ち合わせた新しい園が新設できるということに、非常に期待とそれから楽しみを持っております。私自身が自分の子供を、保育園と幼稚園と両方でお世話になってきましたので、このような施設があるということは、保護者にとってとてもありがたいことではないかなと思います。

ただ、今度、そもそも幼児教育を行う、保育を行うという、質の違う施設がこの地域に、同じ敷地にあるということで、もちろんメリット、デメリットがあり、交流をしていくことができるということもすごくいいことだとは思いますが。ただ、今度、保護者目線になったときに、幼児教育も保育も希望するというような、両方のメリットをやはり求めてくる保護者が出てくるのではないかなということも懸念されます。それはここで話し合うことではないと思いますが。

そんな中で、例えば園内給食とかそういうのはどのような状況になる予定なのか、それからこの一体化をすることによって定員が増になっていくのかという、2点を教えていただけますか。

学務課長。

学 務 課 長

こちらは保育課が中心になってやっておりますので、そちらから聞いた情報ということでお答えさせていただきます。

給食については、給食を提供する方向で考えているという話を聞いております。

それから、定員については、大森幼稚園、それから大森保育園、木下保育園の現在の人員ですね、それを足した分の定員が確保できていると

佐藤委員長

というような話を聞いています。

わかりました。ありがとうございます。

ほかに質問はございませんか。

寺田委員。

寺田委員

すみません。今、給食のほうはこちらがやるというのは、給食センターがやることになりますか、基本的に。

佐藤委員長

学務課長。

学務課長

この施設が民設民営という形、民間になりますので、いわゆる市の給食センターからの提供ということはないということになります。

佐藤委員長

ほかに質問はありませんか。

よろしいですか。

各委員

なし

佐藤委員長

それでは、ほかにその他の項目はございますでしょうか。

指導課長。

指導課長

それでは、指導課からは2点報告がございます。

まず、本年度の市内の幼稚園、小学校、中学校の運動会・体育祭の実施日、予定日の一覧でございます。例年は中学校も同日、小学校もそれぞれ同日の開催でございましたが、先週の中学校は、雨天のため印旛中が1日繰り下げて13日に実施しております。小学校のほうも5連休後の準備2日ということのを避けて、10月3日に行くという学校も半数ほど、この表のとおりでございます。

これは以上でございます。

続きまして、27年度の全国大会・関東大会出場者・結果等の一覧でございます。本年度、原山中学校の硬式テニス部女子団体が県大会優勝で、関東大会に出ております。

また、そこにあります7番、8番の木刈中と滝野中の吹奏楽部が、9月19日横須賀での東関東大会にこれから出場します。勝てば、北海道で全国大会がございます。

あと、全国大会で女子総合の9位に入賞しました吉村さんですが、9月に行われましたわかやま国体に、少年女子ということで団体戦に参加しまして、第2位という成績をおさめております。団体第2位ということになっています。

以上でございます。

佐藤委員長

ただいまの件につきまして、質疑はありませんか。

各委員

なし

佐藤委員長

それでは、ほかにその他、何かございますでしょうか。

生涯学習課長。

生涯学習課長

それでは、生涯学習課から、あと2点お願いいたします。

まず、1点目につきましては、市指定の無形民俗文化財「いなざき獅子舞」の公開事業でございます。

これは、お手元のほうに公開事業のスケジュール等を配付させていただいております。最初に、今回お願いする委員につきまして申し上げますと、佐藤委員長と寺田委員について、今回、ご参加をお願いいたします。日時につきましては、連休最後の日ということで、9月23日でございます。和泉の鳥見神社で行われます。時間的には、出発等も含めまして、1時ぐらいから5時半ぐらいまでという時間になりますけれども、よろしくをお願いしたいと思います。スケジュールにつきましては、お手元の資料のとおりでございます。

今回につきましては、新たな伝承者につきましては、なしということで報告を受けております。

獅子舞につきましては、以上でございます。よろしくお願いいたします。

もう一点ですが、これは皆様からご意見をいただきたいというものがございます。

これにつきましては、印旛公民館において公民館まつりを例年実施しておりますが、こちらについて、印旛で、お手元に公民館まつりと印旛秋まつりの資料を入れさせていただいております。これは実行委員会を立ち上げて、地域で催しているおまつりだそうです。例年、このおまつりと公民館まつりを同時開催でやっていると。たまたま秋まつりのほうは、新たなパンフレットがまだできていないということで、昨年度のを付けさせていただいているんですが、11月2日の日曜日ということで昨年度はできたんですが、今回、実行委員会のほうから、3日の休日、祝日に実施したいというお話がございまして、これの実施に伴いまして、公民館のほうですと休館日ということになっておりますので、形上、臨時開館という形をとらなくてはなりません。実際の規則とか条例を改正するわけではございませんので、その他の中で皆さんにご了解いただきたいということで、これはあくまで利用サークルと地域の方々と打ち合わせした結果、そういう開催日となったものですから、私どもとしては、そのままの3日の開催にさせてあげたいということでございますので、よろしくお願いいたします。

ただいまの件につきまして、質疑はございませんか。

なし

私は個人的に大好きです。ただ、11月3日が文化功労賞の表彰式と重なるもので、どこの会場もお伺いしたいと思いながら、いつも駆け足でお伺いすることができない会場もあると思うのですが、本当に皆様がいろいろな場面でいろいろな形でご活躍いただいていることが、とてもすてきだなと思って、とても大好きです。ぜひ、大盛況にしていきたいと思いますをお祈りしております。

ほかに、その他、ございますでしょうか。

スポーツ振興課長。

佐藤委員長
各委員
佐藤委員長

スポーツ振興課長

スポーツ振興課からは1点ございます。

第21回関東大学女子駅伝対校選手権大会の要項を用意いたしましたので、そちらのほうをご覧くださいと思います。

こちらのほう、印西市では第8回目になります。期日が、平成27年9月27日日曜日でございます。

コースは昨年と変わりなく、印西市の千葉ニュータウン周回コースでございます。

委員の皆様方におかれましては、出席される方は9時に東京電機大学に集合していただいて、スタート地点になりますので、そちらのほうに集合していただいて、9時半レーススタートで、激励をしていただければと思います。

それから、移動していただきまして、10時、大体15分ぐらいに高花中継所へ移動していただきまして、10時40分ごろ、ゴール観戦、大体例年ですと、11時10分ごろには先頭チームが入ってきますので、11時10分ごろ、そちらのほうを見ていただいて、11時30分には高花小学校で昼食をとっていただいて、午後1時、13時には表彰式、高花小体育館というような予定をしております。

出場チームですが、ことしは22校、23チームでございます。去年は23校、25チームで、1校2チームの減になっております。後ほど、委員の皆様の出席確認をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

以上でございます。

佐藤委員長

ただいまの点につきまして、何か質問はございますか。

よろしいですか。

各委員

なし

佐藤委員長

それでは、ほかに、その他、何かございますでしょうか。

教育長。

教育長

先ほどのKWB野球秋季大会について回答したいと思います。これは全国大会ということで、KWB、Kボールという軟式野球のボールと硬式のボールとの中間の、ちょっとかための、軟式よりかたいボールなんです。そういうボールを使って行う野球大会ということで、チームについては、各都道府県、原則、代表チーム1チームということで、各都道府県の野球連盟のほうで選手を選抜して合同チームをつくるということで、参加しております。千葉県については、千葉ファイターズという名前のチームをつくって参加するということ、1チームです。

会場は成田市、印西市初め近隣の市、町の野球場を使うということで、開会式に、私のほうで行ってまいりたいと思っています。

以上でございます。

佐藤委員長

ありがとうございました。

ほかに、その他、ございますでしょうか。

学 務 課 長	学務課長。 先ほど委員長から、幼稚園の在籍者数ということについてお答えさせていただきます。 大森幼稚園は合計で54名、瀬戸幼稚園は77名、もとの幼稚園は269名、平成27年8月1日現在の人数ということでご理解いただければと思います。
佐 藤 委 員 長	ありがとうございます。 ほかに、その他、何かございますでしょうか。
教育総務課長	教育総務課長。 それでは、日程を確認させていただきます。 先ほどのスケジュールにございましたが、次回の教育委員会の定例会につきましては、10月1日木曜日の午後2時から、この会場で開催いたしますので、よろしくお願いいたします。なお、同日でございますが、引き続きまして、第2回の総合教育会議を15時30分の予定で予定をさせていただきます。よろしくお願いいたします。
(閉議の宣告)	以上でございます。
佐 藤 委 員 長	以上で本日の日程は全て終了いたしました。 会議を閉じます。
(閉会の宣告)	
佐 藤 委 員 長	これで、平成27年第9回印西市教育委員会定例会を閉会いたします。 お疲れさまでございます。

(14時40分)

印西市教育委員会会議規則第31条の規定により、上記会議の顛末を録し相違ないことを証するためここに署名する。

平成27年9月17日

委 員 長 佐 藤 め ぐ み

署 名 委 員 大 野 忠 寄